

教育方針	地域社会や家庭と連携をとりながら、知・徳・体の調和のとれた高校教育を推進し、人格の形成と社会の担い手として必要な資質の向上を図る。		重点目標	生徒一人一人を大切に <u>する教育の推進</u> ～長高から未来を切り拓く自己肯定感と確かな学力の育成を目指して～	
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
確かな学力	主体的に学習に取り組む姿勢の育成	主体的に学習に取り組む生徒100% (授業評価アンケート(自己評価)) A: 90～100ポイント B: 80～89 C: 60～79 D: 50～59 E: 50ポイント未満	B	授業評価アンケート結果は、第1回が平均87ポイント、第2回が同87ポイントとなり、高評価を維持した。	生徒の実態及び能力の把握に努め、予習復習の効果や授業態度・提出物の適切な評価を説明する。主体的に全力で取り組むことのできるような学習態度を育成していく。
		<u>考查前家庭学習時間1日平均2時間30分以上</u> A: 2時間30分以上 B: 2時間以上2時間30分未満 C: 1時間30分以上2時間未満 D: 1時間以上1時間30分未満 E: 1時間未満	A	家庭学習時間調査結果は、第1回が1日平均171分(2時間30分以上の生徒60%)、第2回が208分(同65%)、第3回が187分(同60%)、第4回が170分(同57%)で、目標を達成しているが、個人差がある。	学習意欲の高い生徒には、学習時間の増加とともに、学習の質を高める指導に力を入れて、より成果を実感させる。一方、学習意欲の低い生徒には、事前学習会や事後指導、個別指導等を工夫・改善しながら行い、苦手意識の克服と学習意欲の向上に根気強く取り組んでいく。ともに進路実現につながる主体的な学習態度を育成していく。
		授業に満足している生徒100% (授業評価アンケート) A: 90～100ポイント B: 80～89 C: 60～79 D: 50～59 E: 50ポイント未満	A	授業評価アンケート結果は、第1回が平均90ポイント、第2回が同92ポイントとなり、高評価を維持した。	生徒の実態及び能力の把握に努め、校内外の授業研修や教育機器を積極的・効果的に活用しながら、生徒にとって「よく分かる楽しい授業」「進路実現・自己実現につながる授業」が実践できるように、工夫・改善を図っていく。
環境全・健全・安心・安全・心豊かな教育	交通安全意識や交通マナーの向上	ICT機器を活用し、一人一人を大切に <u>した授業の実践</u>	B	授業評価アンケート結果のうち、ICT機器活用については、第1回が平均87ポイント、第2回が同89ポイントとなり、高評価を維持したが、今後さらなる工夫の余地はある。	一人1台端末等のICT機器を積極的・効果的に活用できるように、工夫・改善を図っていく。ただし、学習の本質を見失わないように心掛ける。
進路実現	進路意識の向上	進路意識が高まった生徒100% (進路ガイダンス後アンケート) A: 90%以上 B: 80～89% C: 60～79% D: 50～59% E: 50%未満	B	2学期の進路ガイダンスにおいて、「その仕事内容について理解できたか」の問いに、88%の生徒がよくできたと回答し、学校評価アンケートの「自分の進路に対して、この1年でよく考えるようになったか」について、全学年平均が4.4であった。	今年は生徒の進路希望に応じて、14の講座でガイダンスを実施した。今後も生徒にとって効果的な進路ガイダンスを計画し、意識啓発を図りたい。
	進路目標の実現	進学決定率100%、就職内定率100% A: 90%以上 B: 80～89% C: 60～79% D: 50～59% E: 50%未満	B	12月末現在で、進学決定率84.8%、就職内定率88.9%である。	補習やキャリアデザインの時間を活用し、早期対応で生徒の希望実現を目指したい。
	交通安全意識や交通マナーの向上	交通安全意識や交通マナーの向上	交通事故0件 A: 0件 B: ー C: 1件 D: 2件 E: 3件以上	A	R7 1月現在、事故の発生はない。
交通安全意識や交通マナーの向上	交通安全意識や交通マナーの向上	交通マナー(列車通学・自転車通学など)を遵守する生徒100% (学校評価アンケート) A: 4.5～5.0 B: 4.0～4.4 C: 3.0～3.9 D: 2.0～2.9 E: 2.0未満	A	生徒の自己評価値(4.8)であった。	生徒の自己評価値は高いが時折地域の方々より登下校の様子が悪いことに関しての連絡を頂くことがある。歩行中のスマートフォン操作やイヤホンの使用、2列以上の歩行等危険性の高い行為については注意喚起を継続して行っていきたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
安全・安心な教育環境	特別活動の充実	学校行事の満足度100% (学校評価アンケート) A:4.5~5.0 B:4.0~4.4 C:3.0~3.9 D:2.0~2.9 E:2.0未満	A	生徒の自己評価値(4.5)であった。	生徒の満足度は高い傾向と言える。文化祭を11月から12月開催に変更し特に3年生の負担を軽減し内容充実に努めた。今後も効率性、実施の意義を含めて改善を図っていききたい。
		県大会以上出場部80%以上 A:80%以上 B:70~79% C:60~69% D:50~59% E:50%未満	B	体育部(4部)の南予予選を通過しての県大会出場部は3部であった。その中でも陸上部は、県総体2位(女子ハンマー投)に入賞し、四国総体でも4位となり全国高校総体(福岡)に出場した。新人大会においては大変苦戦をしている。	所属生徒は年々減少しているがよく健闘をしている。個人種目の多い種目特性を生かし、近隣他校などとも協力し、今後も個に寄り添い対応していききたい。吹奏楽部は『魅can部』登録を行い魅力ある活動に力を入れている。
	生活習慣の確立と規範意識の向上	欠席0の生徒数70%以上 A:70%以上 B:60~69% C:40~59% D:30~39% E:30%未満	D	2学期末時点で皆勤者は48人(48/152人)皆勤率は、31.5%であった。	昨年度(20%)より数字上では若干の向上となった。不登校傾向の生徒もいたり、個々に通学に対する障壁は異なるが、遅刻・欠席数を含め減少させ皆勤者を増加できるように個々に寄り添い励まし援助していききたい。
		延べ遅刻者数月平均20以下 A:20人以下 B:21~30人 C:31~40人 D: — E:40人以上	A	月平均15.93人/月(12月末時点)1年生を中心に遅刻者は未だに多い状況であるが、昨年度(23.4人)よりは大きく改善できている。	単身生活者の1年生に遅刻が多い。しかし、遅れる生徒は特定され個々に抱えている状況も異なる。不規則な生活にならないように学校生活は元より下校後の生活にも注意喚起を継続していききたい。
健全な体	高校生らしい身だしなみや元気な挨拶ができる生徒100% (身だしなみ指導合格率) A:80%以上 B:60~79% C:50~59% D:30~49% E:30%未満	B	2学期実施時点での合格率は男子(54.1%)、女子(81.95%)全体での平均合格率(67.5%)であった。	「身だしなみの校則」について今年度大きく変更を行った。生徒にとって学校生活に集中できる内容を目指し、整備を進めている。適宜内容については改善を図る予定である。特徴として、安易な理由での不備がまだ目立つ。指導日だけでなく、日常から身だしなみを意識した登校を心がけさせたい。	
健全育成	読書の充実	生徒一人あたりの図書貸出冊数8冊以上 A:8冊以上 B:6~7冊 C:4~5冊 D:2~3冊 E:1冊以下	A	図書館の本の貸し出し冊数は、平均すると一人当たり8.6冊であり、目標は達成している。ただし、図書館の本の利用が0の生徒数が、例年より増加傾向にある。読書をしていないというわけではないが、図書館の利用については、決まった生徒に限定されているところがある。	まずは足を運ばせることに注力したい。図書館を利用する機会を授業などと連携させて作っていく。また、今年度は選書会を行い、図書委員には本を選ぶ楽しみがあったと好評だった。その輪を全校に広げていくことやその他の啓発活動に工夫をする。
	いじめを許さない望ましい集団づくり	学校が楽しいと感じている生徒100% (学校評価アンケート) A:4.5~5.0 B:4.0~4.4 C:3.0~3.9 D:2.0~2.9 E:2.0未満	B	学校評価アンケートは評定が4.2であった。昨年度の4.2と同じ結果となった。また、毎月実施している健康観察の「学校生活は楽しいですか」の質問に対して、全校生徒の92%以上が、「楽しい」「やや楽しい」と回答している。学校生活を前向きに送れている生徒が多い。	担任や学年主任を中心に、面談や「長高いじめに関するアンケート」等を通じて、生徒の状況の把握を一層進める。それが些細な内容であっても生徒に寄り添い、話を聞く姿勢を生徒に見せていく。また、スクールライフアドバイザーや相談できる人がいることを呼び掛けるようにする。
	地域貢献につながる活動の充実	ボランティア活動への積極的な参加 (学校評価アンケート) A:80%以上 B:70~79% C:60~69% D:50~59% E:50%未満	B	学校評価アンケートでは、75%の生徒が、奉仕活動やボランティア活動等、地域における活動に積極的に参加をしていると回答している。	今年度も、多くの生徒が奉仕活動やボランティア活動、地域の祭りなどに参加した。単身生活生徒をはじめ大半の生徒たちが、日頃から御支援いただいている地域の方々のために力になりたいという思いを持ってきていると思う。引き続き地域の行事やコミュニティセンター活動などに積極的に参加し、地域の方々への感謝の気持ちを伝えていききたい。そして、社会人になってからも率先してボランティア活動等に参加できる生徒を育成していききたい。
特色ある学校づくり	水族館活動の充実	来館者の満足度90%以上 A:90%以上 B:70~89% C:50~69% D:30~49% E:30%未満	A	来館者満足度の平均値が92.7で、高評価をいただいた。また、イオンエコワングランプリ全国3位、タコの研究で全国大会優秀賞、全国ユース環境活動発表大会全国大会(2月)出場など、部員の活躍が目立った。	今後長浜保健センターの水族館は、施設の拡充を予定しており、ハード面・ソフト面ともに魅力を向上させていききたい。
	地域の活性化や学校の魅力化に向けた活動の推進	地域の活性化に向けた取組参加者延べ人数 A:30人以上 B:20~29人 C:10~19人 D:5~9人 E:5人以下	A	地域の清掃活動や祭り、折り紙教室やクリスマス会などのイベントへの参加生徒は延べ175名(昨年度192名)が参加した。1年生54名は総合的な探究の時間(キャリアデザイン)において「地域探究プログラム」に参加し、地域の課題解決に向けた取組を積極的に行った。	10年後、20年後の長浜地区のことを考えるとともに、長浜地区の地域資源を活用し、今まで以上に地域とのつながりを大切にしながら、よりよい社会の構築に向けて、主体的に行動することができる人材を育てるため、今後も生徒とともに我々教職員が情熱をもって取り組んでいく。
		伊予長浜豊年踊りの継承	A	部員は兼部の生徒のみであるが、積極的に練習に取り組み、長高フェスティバルで披露することができた。	部員の確保に努めていききたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
特色ある学校づくり	情報の積極的な公開	ホームページアクセス数1日平均350件以上 A: 350以上 B: 300以上 C: 250以上 D: 200以上 E: 200未満	B	今年度4月から12月のHPアクセス数平均は、337であった。Instagramと併用して情報発信をしているため、昨年度より増加したものの、HPのアクセス数は伸び悩んでいる。	HPとInstagramの双方の利点を生かし、掲載内容の充実や分かりやすい情報発信に努めたい。
	PTA活動の活性化	保護者のPTA総会参加率60%以上 A: 60%以上 B: 50～59% C: 40～49% D: 30～39% E: 30%未満	C	今年度のPTA総会の出席率は45.2%であった。昨年度の58.6%を下回った。県外からの単身生活生徒の割合が昨年度の25%から38%と増加したにもかかわらず、リモートでの参加は昨年度より11%減少したことが原因と考えられる。	単身生活生徒の割合が急増している現状にあって、PTA総会をはじめとするPTA活動自体の在り方を見直さなければならない時期にあると考える。リモートなど単身生活生徒の家庭が参加しやすい環境を整備するなど、改善を図っていきたい。
業務の改善		ICT機器等の活用や業務内容見直しにより、3項目以上の業務軽減や削減を図る A: 3項目以上 B: 2項目 C: 1項目 D: できなかった E: 増加した	A	一人1台端末などICTを有効に利活用し業務効率化に努めた。特に、長高いじめに関するアンケートや学校評価アンケートなど各種調査をteamsで実施し集計時間の短縮を行った。また、家庭訪問の見直しや保護者懇談会の一部をオンラインで実施、運営委員会の書面開催、職員会議の終了時間厳守を行った。さらに就職及び入試面接の練習を3年担任以外の教員に割り振り担任の負担軽減に努めた。1年を通じて管理職が率先してコミュニケーションを取りやすい雰囲気作りを努め、風通しの良い職場づくりを行った。	引き続き、ICT機器の有効な活用について研修を重ねる。また、他校や他県の取組事例も参考にし、各課、各学年、各教科において課題を洗い出し、今後の学校行事や業務内容について一層の精選や削減に取り組む。教職員の健康を保つとともに、誇りややりがいを持って能力を発揮できる環境を整え、生徒たちへの効果的な教育活動につなげていきたい。
		時間外勤務時間を3%以上削減する A: 3%以上 B: 2～3%未満 C: 2%未満 D: 変わらなかった E: 増加した	E	4～12月の平均で前年度比1.1%増加した。昨年度同様1クラス分生徒数が増加したことに伴い、進学希望者や単身生活生が増加し個別の対応時間が増加するなど時間外業務が増えたものと考えられる。	テレワークの利用推進や教職員一人一人の業務量及び役割分担の見直しを行い、組織改編に取り組む。働き方改革により教師のウェルビーイングを確保するとともに、教師が学ぶ時間を確保し自らの授業を磨くこと等を通じて、生徒たちにより良い教育を行うようにしていきたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。